令和４年５月

くすの木通信

三高だより第 187 号

「 Challenge に満ちた毎日を送ろう 」

教務課長　嘉村 良子

４月に 234 名の新入生を迎え、全校生徒 734 名の令和４年度がスタートしました。新しい学校、新しいクラス、新しい科目・先生など、新鮮なものにあふれた毎日ですね。コロナ禍のなか、さまざまな活動に制限がおかれ、自分のやりたいことが存分にできない生活も３年目となりましたが、目の前のことにしっかり向き合い、「やるべきこと」でいっぱいの毎日を充実させて過ごしましょう。今年度より、授業時間数が週に一時間増加し、７時間授業の日が増えました。一つ一つの授業を実りあるものにするために、家庭での学習（宿題）は毎日欠かさずやりましょう。家庭学習時間の目安は、３時間以上です。学年が上がるごとに学習内容も高度になりますので、量だけでなく質も高めて学習に勤しんで下さい。予習→授業→復習のサイクルを早く確立させ、「よく分かる楽しい授業」が受けられるよう、頑張りましょう。

高校生の３年間は、これからの人生の進むべき方向を決める大事な３年間です。今までで一番、そして全力で学習に取り組むべきです。今から 2500 年も前に、孔子が述べています。「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。朋有り遠方より来る、亦楽しからずや。(学問をして、その学んだことを常に反復練習する。そうすると理解が深まって身に付いてくる、なんとうれしいことではないか。こうして学問に励んでいると、自分と同じく学問に志す友人が、近い所はもちろん遠方からもやってくるようになる。そうして学問について語り合う、なんと楽しいことではないか。)」学校で過ごす時間を楽しむことができるようになれば、それ以上にうれしいことはありません。

自分の全力を、高校３年間にぶつけてみましょう。もちろん勉強だけに限りません。何事にも全力で取り組んでみて、成功したときには喜び、更なる高みを目指しましょう。時に失敗してしまったとしても、やり直すチャンスを探し、現実に向き合う経験からは多くのことが学べます。成功の反対は失敗ではありません。何もしないことです。

みなさんの毎日が、チャレンジで満ちあふれることを期待しています。

「 令和の怪物も、我慢の連続だった 」

生徒課長　児玉 信也

千葉ロッテマリーンズに所属している佐々木朗希投手が４月 10 日の試合で快挙を成し遂げた。13 連続奪三振を含む 19 奪三振、プロ野球 28 年ぶりの完全試合を 20 歳の最年少で達成した。歴史に名を刻んだ佐々木投手だが、ここに至るまでは我慢の連続だった。高校３年の夏、甲子園出場をかけた県大会決勝では「故障を防ぐため」という監督の判断で登板回避に。当時は賛否をめぐって大きな議論を呼んだ。

プロ入りしてからも忍耐の日々は続き、１年目の登板はゼロでひたすら土台作りに専念。その後、２年目に実戦デビューを果たし、今年３年目にして初めて開幕ローテーション入り。耐え続けた先で、圧巻のパフォーマンスを見せたのだった。

開幕前のインタビューでは、「なかなか思うようにいかないことがほとんどだったんですけど、小さいことの積み重ねが大きな結果を生んでくれると信じてやっています」と語っている。これまでの時間が糧となり、今があるということだろう。

生徒一人一人が無限の可能性を持つ存在である。ペースは人それぞれ、自分らしく歩み輝いてほしい。三島高校での３年間があったからこそ、今の自分があると将来思えるよう、私たち教員も保護者とともに、生徒のみなさんの頑張りを応援していきたい。